

# 目 次

○提言の要約	P 1
1. はじめに	P 2
2. 城陽市の現状	P 2
(1)人口推移と定住促進への取り組み	P 2
(2)主な地域資源と住民サービス	P 3
(3)主な地域活動の状況と市民の意向	P 4
3. 城陽市の抱える課題	P 5
4. 政策提言	P 6
(1)地域の活性化への提言	P 6
・住民のまちへの“無関心”を“関心”に変える意識改革	
・地域活動に対する消極的な参加からの脱却	
・誇りをもてる“自分のまち”への愛着の醸成	
(2)基本理念	P 7
(3)政策	P 7
5. 具体的な施策	P 9
◆Step1『まちの駅「陽だまり」の開設』	P 9
◆Step2『まちの情報発信基地へ』	P 11
◆Step3『ごり <sup>2</sup> ネットワークの構築』	P 12
6. おわりに	P 14

提言の要約

『ごり<sup>2</sup>ネットワークの構築～城陽市から地域の絆づくりを発信～』

城陽市全体でエリアや世代を超えた、住民の誰もがお互いに助け合える社会システムを構築することにより、地域コミュニティが形成された、「ふれあい」と「魅力」のある持続可能なまちを実現する。

城陽市の現状

【社会的現状】

- ◆都市近郊のベッドタウンとして発展
- ◆高齢化が進行し、周辺都市に先駆け人口が減少
- ◆空き家・空き店舗の増加

【地域資源・市民サービス】

- ◆6つの鉄道駅が存在
- ◆文化・スポーツ施設の充実
- ◆子育て支援施策の充実
- ◆近隣都市には、多数の大学が存在

【住民意識】

- ◆住みやすいまち
- ◆地域活動への関心の差が大きい
- ◆「ふるさと」感の低さ
- ◆市民活動の固定・高齢化

課題

- 生活の利便性に満足して、自分のまちに関心がない
- 市民生活が限定的・部分的で地域の一体感がない
- まちに「ふるさと」感を持っていない

提言

- 住民のまちへの“無関心”を“関心”に変える意識改革
- 地域活動に対する消極的な参加からの脱却
- 誇りをもてる“自分のまち”への愛着の醸成

Step1<<～10年後>>

まちの駅「陽だまり」の開設  
～地域との交流拠点の創出～

Step2<<～10年後>>

まちの情報発信基地へ  
～地域コミュニティの再生～

Step3<<10年後～>>

ごり<sup>2</sup>ネットワークの構築  
～17、世代を超える絆づくりの構築～

施策

効果

何かが始まるきっかけができる

近所づきあいから地域の連携が広がる

それぞれの活動の輪が、地域の絆に変わる

住民

+

行政

+

大学生



新たな地域コミュニティ

\* : 「ごり<sup>2</sup>ネットワーク」 : 城陽市は京都市・奈良市まで5里(約20km)に位置し、城陽から新たなコミュニティを発信する意味を込めて命名。